小熊秀雄研究

小田切秀雄
木島始
編

小熊秀雄研究

小田切秀雄
木島始 編

創樹社

小熊秀雄研究（小熊秀雄全集別巻）　0395—0135－4249

1980年11月20日　初版第1刷発行

定　価　4800円

編　者　小田切秀雄・木島始
発行所　株式会社　創樹社
電話　東京　815・3331(代)　振替東京 2・154580
東京都文京区湯島 2・2・1　〒113
本文印刷　松沢印刷
装本印刷　広　陵
製　本　美行製本
製　函　山崎紙器

1980©　小田切秀雄（代表）　乱丁落丁本はお取替えします。

序——この本の編者のひとりとして

小田切秀雄

小熊秀雄の愛読者と研究者の皆さんに、これまで半世紀ほどの間に書かれた小熊論・小熊研究・回想・資料等のうちの主要なものを、ここに集めて提出する。これ以外にもすぐれたものがないというのではないが、それらの数はわずかである。全体として、小熊について書かれたものはまだそう多くはない。むしろわたしたちは、これだけのものがすでに書かれていること、多少は選択をさえせねばならなかったことに驚いているくらいだ。小熊についての立入った検討や調査ははじまったばかりであり、むしろこれからである。

このことは、小熊の真価が知られることがひどく遅かったことに拠っている。小熊は生涯にわたって不遇だったが、没後もかなりの期間にわたってその状態が続き、しだいにそれは破られはじめはしたが、『小熊秀雄全集』全五巻が完結したのはようやく一九七八年になってからで、没後三八年にしてであった。すぐれた先駆的詩人にはまったくありがちなこと——北村透谷や石川啄木のように——ではあるが。

ようやくいま、小熊の多様な、豊かな詩的また文学的な達成の内容が広く知られはじめ、そのなかにひそめられている無限の新しい可能性が注目されはじめたことは、もとより小熊の作品じたいの力によるものではあるが、小熊という存在の意味について早いころから気づき、書いてきた人々の力によっているという面もある。それらは数多くはないので、そのかなりの部分がこの一巻に入ってしま

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.cc

っているくらいだが、それだけにまたすぐれたものが多くて（もちろん、わたしのものは別だ）、それじたいとして読まるべきものであり、この一巻は『小熊秀雄全集』のたんなる別巻にとどまるものではない。なお、多年の貴重な伝記的・文学的研究をまとめた佐藤喜一氏の『小熊秀雄論考』・『評伝・小熊秀雄』の二著のような労作を、量の関係からその一部しか収録できなかったのは残念だが、そこに収められた諸研究が旭川の雑誌『冬濤』等に多年にわたって断続的に発表されていたその当時は、まだ小熊の真価が広く知られていなかった時期であるだけに、佐藤は好事家のように見られていたかもしれない。しかし、かれの研究が今回の小熊の全集編集の最も有力な基礎の一つとなったのであって、かれの二著のもつ質実な力は、こんにちようやく十分に納得され評価されはじめている、というようなことがある。また、今回ここに一冊全部を、そのままの形で収録した『現代文学』の小熊追悼号も、その当時はひっそり少部数出ただけのものだったが、いまになっては、それがどんなにすぐれた追悼号であったかが多くのひとに知ってもらえるようになっていると思われる。

これら本書に収録したものの個々について、くわしくは巻末の木島始氏の「解説」を見られたい。なお、わたし個人としていえば、困難な出版状況のなかで、大出版社というわけではないのに、完備した『小熊秀雄全集』の実現に力を傾け、さらにこの「研究篇」をも刊行する創樹社の玉井五一氏にたいする敬意を書きとめておかないではいられない。

一九八〇年八月

編集・校訂について

一、本研究篇には「現代文学」小熊秀雄追悼号の他、作品論、詩人論、回想を選択収録し、『小熊秀雄全集』（全五巻・創樹社刊）完結後に新たに発見された資料を収録した。

一、座談は収録しなかった。

一、校訂に当って、漢字は当用漢字にあるものは新字体に改めたが、用字仮名遣い送り仮名などは、発表誌のままとした。ルビは、総ルビのものもあるが、必要と思われるものを除いてこれを省略した。

一、明らかな誤植は訂正した。

一、Ⅰ章からⅣ章までの本文中の小熊秀雄の詩、散文からの引用は、一部を除いて、小熊秀雄全集に照合してこれを改めた。

一、各収録作品末の発表誌・発表年月日のあとの〈　〉内は巻数・号数を示す。

一、巻末の「小熊秀雄研究参考文献一覧」は一九八〇年一〇月二五日の時点で判明しているものについて記した。

小熊秀雄研究

目次

序——この本の編者のひとりとして　小田切秀雄……1

I　追悼——復刻他

「現代文学」小熊秀雄追悼号　復刻

無題（遺稿）小熊秀雄……24
小熊秀雄について　中野重治……27
小熊秀雄君の死　金子光晴……30
白樺の俗謡　菊岡久利……30
画帳（遺稿）小熊秀雄……33
小熊さん　湯浅芳子……36
小熊秀雄の死について思ふこと　岡本潤……39
小熊秀雄のこと　壺井繁治……41
死界から　小熊秀雄……44

詩人の死　杉山英樹……54
ちひさな思ひ出　平野謙……57
晩年の小熊秀雄　大井廣介……60
小熊秀雄年譜……68

小熊秀雄　遺作展覧会—パンフレットより

あいさつ……70
会期会場……70
発起人一覧……70
小熊さんの遺作展について　深尾須磨子……71
小熊君の遺作展にのぞんで　北川民次……72
遺作展寸言　寺田政明……73
小熊氏の絵　寺田竹雄……73
あいさつ　小熊つね子……74
小熊秀雄のこと　堀田昇一……75

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.cc

Ⅱ　作品論・詩人論——戦前・戦中

詩壇時評　新井徹……83
小熊秀雄氏の詩　近藤正美……88
小熊秀雄論　田中英士……89
小熊秀雄論　大江満雄……96
小熊秀雄についての漫語—「飛ぶ橇」及び「小熊秀雄詩集」を読む　森山啓……101
詩人の自画像など—「飛ぶ橇」について　郡山弘史……107

Ⅲ　作品論・詩人論——戦後

小熊秀雄の詩　中野重治……115
小熊の思い出　中野重治……119
小熊秀雄　遠地輝武……128
小熊秀雄　壺井繁治……143

小熊の評論集にそえて—思潮社版『小熊秀雄評論集』刊行のさいに　小田切秀雄 …… 156
小熊と昭和文学の主人公たち　小田切秀雄 …… 166
守備の詩と攻勢の詩—村野、小熊その他〈昭和詩の問題・5〉　大岡信 …… 185
現代詩の展開　安東次男 …… 199
小熊秀雄の詩との出会い　野間宏 …… 207
『小熊秀雄全詩集』　長谷川四郎 …… 209
解説　岩田宏 …… 211
同時代者小熊秀雄　長田弘 …… 216
日本の憂愁—小熊秀雄について　井上光晴 …… 226
哄笑の構造・反世界への冀求—小熊秀雄小論　高野斗志美 …… 233
針を踏む人魚—童話集『ある手品師の話』　木島始 …… 248
「旭太郎」の夢—子どもマンガ　木島始 …… 255
昭和初年の諷刺文学論　佐藤喜一 …… 260
美術と小熊　佐藤喜一 …… 275

小熊秀雄の素描と油絵　土方定一……281
小熊秀雄の自画像　麻生三郎……284
あとがき　匠秀夫……285
「詩と絵と画論」のこと　秋山清……288
その人の非情—小熊秀雄の絵のこと　窪島誠一郎……291
小熊秀雄に関する四つのこと　印牧真一郎……299
小熊秀雄論—「白い夜」を中心に　村田正夫……303
小熊秀雄論—原型期の位相　塔崎健二……312
『飛ぶ橇』—小熊秀雄作品研究　和田順……338
朝鮮と小熊秀雄—「長長秋夜」私見　卞宰洙……342
小熊秀雄　アナトーリイ・マーモノフ／中本信幸訳……356
カリカチュア小熊秀雄　加藤悦郎……363
飛ぶ橇を祝する詩　木村京二郎……364
遺作展　岡本潤……364
影絵の国　小野十三郎……365
詩人小熊　広瀬操吉……366

Ⅳ　回想

小熊君の印象　酒井廣治……371
「円筒帽」時代の小熊秀雄　鈴木政輝……372
記憶をたどる　木内進……374
小熊秀雄との交友日記　小池栄寿……375
秀雄さん　宮森要……393
小熊秀雄の思い出　入江好之……396
小熊秀雄のこと―犬に喰われた絵　高橋北修……398
小熊秀雄と私　平岡敏男……400
小熊秀雄の思い出　千脇陣司……403
小熊秀雄のこと　大元清二郎……404
小熊秀雄のこと―詩人を虐げたあの年月の暗さ　杉浦明平……407
晩年の小熊秀雄　大井広介……409
小熊秀雄についての蛇足　大井広介……416
頭髪　遠地輝武……418

その頃の小熊クン　湯浅芳子……419
小熊秀雄の絶筆　関根弘……420
小熊秀雄　川尻泰司……430
小熊秀雄さんに寄せて—絵のことなど　寺田政明……431
小熊秀雄、あの頃のこと—寺田政明聞き書き　須藤出穂……433
小熊秀雄とその時代　菅原克己……442
秀雄のこと　小熊つね子……447
小熊秀雄との歳月　小熊つね子……448

V　新資料

〈短歌〉
第三回歌話会詠草—十五日無尽会社棲上で……459
〈詩〉
未墾林……459
樺太犬……460

牧草……461
鯛……461
隅田川を歌ふ……462
諷刺詩　伊太利の左官屋……462
星を見る青年へ……464
旭川風物詩㈢—旭川頭駅所感……465
旭川風物詩㈦—招魂社祭り……465
太陽と月と百姓の歌……466
名曲ファン……467

〈評論・エッセイ他〉

福田正夫氏最近の態度……468
汝等の背後より—無産派の分裂を讃ふ(上下)……470
永久に狭量か—青砥氏の映画観其他に……472
誰が楽観主義者か……474
「『癩』に就いての感想」断片……476
詩選稿の感想……477

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com